

2016年度の活動計画(総会での検討結果を加筆)

担当

1	視察・見学A	首都圏外郭放水路	上野、池袋、東京などから電車を乗り継ぎ約1時間。埼玉県の大宮駅と千葉県の船橋駅を結ぶ東武野田線の小さな駅『南桜井』駅から、さらにタクシーに乗って約7分という、アクセスが良いとは言えない場所に、今大人気の“大人の社会科見学”スポットがあります。	泉
2	視察・見学B	藤沢市SST(バナホームスマートシティ)	神奈川県藤沢市に誕生した「Fujisawaサスティナブル・スマートタウン」は、バナソニックはじめ、バナホームを含む先進的な取り組みを進めるパートナー企業18社と藤沢市の官民一体で実現を目指す環境配慮型の街づくり。くらしから発想し、100年先も“生きるエネルギーが生まれる街”を目指した、2018年度完成予定の大規模な開発事業です。	林
3	プロジェクトA	エアモンを利用した、活動地域スケールで人体に影響が考えられる微粒子のモニタリング	当NPOメンバーが保有するエアモンによるPM2.5、PM10のデータ収集を開始。そのデータ活用の方法の検討を進める。	鬼鞍・角田
4	プロジェクトB	中学校ほかにおける地域気象情報の活用	学校における安全確保、災害予防などを目的とした地域気象情報の活用事例を収集する。学校当局と意見交換しながら、その有効性を検討する。モニター校として、東京都目黒区のとキワ松学園、中等部を対象とする。藤沢市内の学校を対象に加える。	鬼鞍・常盤・角田・相原
5	プロジェクトC	スズメウリ北限の北への移動	昨年は、大田原まで生育が認められた。北海道では発芽しなかった。栽培条件を決めて栽培する。	泉
6	プロジェクトD	放射能モニタリングによる拡散予測とその社会的意義	SPEEDIの予測結果を公開することの意義についてコンセンサス作りを行う。	泉
7	プロジェクトE	日射量・日照時間のモニタリングの活用による地域の太陽エネルギー量の評価とデータの活用	藤沢AWSのデータをもとに、日射量から太陽光発電量を推定し、HPに示すると興味をもってもらえる可能性がある。また、フィールドで気象要素を簡易測定する装置を地域気象の把握に導入する可能性を探る。	泉・寄崎
8	プロジェクトF	室内雲の制作	雲？ができるメカニズムの整理と作成方法の体得 (1)先行事例の洗い出し、(2)スミルデ氏へのコンタクト→見学申し込み、来日オファー、(3)動画の翻訳、(4)実験	小松
9	プロジェクトG	藤沢市における生物季節の観察	藤沢市の気候を生物指標により総合的に評価するために、定点と対象(ソメイヨシノなど)を決めて、生物季節の観測を継続する。藤沢市の中でも、海岸、内陸、藤沢駅周辺などでは気候が異なることも予想されるので、それらの中で数箇所を決めて観測を行う。	丸田
10	行事参加	藤沢市かんきょうフェア	2016年11月12日(土)、前日準備、藤沢市民会館。海陸風や逆転層、K-H波、などの可視化へ実験装置を活用する。	林
11	公開セミナー	市民公開講座など	適切な会場があるか、調査を行う。100名程度の参加者がほしい。	林
12	講師派遣	適宜対応		全員